

# 雑 録

**理研コンツェルン第二次擴充** 理研コンツェルンでは傘下の金屬工業 機械器具工業及び化學工業の三部門に互り漸くコンツェルンとしての體形を整備したので愈第二次擴充期に入ることとなり 機械工業を中心に最近における事業新設 増資或は拂込徴収等相次いで陣容の擴張を行ひつつあるが更に年内において多數の新設計畫を有しており時局の好影響をうけて急激なる大膨脹を見ることとなつた 最近における事業新設或は増資の主なるものは次の如くである。

### 金屬工業部門

1. 新設 理研電磁器(マグネテイクチャック)資本金 30 萬圓全額拂込 工場新潟縣柿崎 製品電磁器
1. 増資 理研鋼材 資本金 50 萬圓を 5 倍の 250 萬圓に増資決定 理研壓延工業 資本金 50 萬圓を 4 倍の 200 萬圓増資拂込 期日 11 月 1 日

### 機械器具工業部門

1. 新設 ガイク機械製造(資本金 50 萬圓)工場蒲田 製品鐵道用機械及び發動機 理研電具(資本金 150 萬圓 4 分 1 拂込)工場東京 製品 リケノウム 電氣抵抗器及び電氣機具 柏崎興業(資本金 20 萬圓)事業 新潟縣柏崎附近の機械器具下請工場の統制
1. 増資 理研チャック 宮内製作所資本金 30 萬圓を 5 倍の 150 萬圓に増資

尙この他に工作機械の販賣機關として大阪に浪花機械商會(資本金 20 萬圓)を既に設立 更に地方工業振興のため輸出向け玩具製造の上越興業(資本金 20 萬圓)を新設したが 此の大膨脹のため多額の資金を必要とするため統轄会社の理化學興業も近く増資を行ふ豫定である。(東朝 8 月 6 日)

**日本製鐵株式会社專任取締役會長新任** 從來同社に於ては中井社長が取締役會長兼任なりしが今度平生飢三郎氏同會長に就任され中井社長が專任となられり。

### 昭和製鋼所新分課新制

#### 總 務 部

1. 文書課 (秘書 文書 庶務の 3 係)
2. 人事課 (人事 社宅 福利の 3 係)
3. 工場課 (勞務 勞工 取締 作業 安全の 5 係 實科教習所 滿人訓練所)
4. 新京駐在員

#### 經 理 部

1. 主計課 (豫算 決算 審査の 3 係)
2. 會計課 (出納 給與 計算 財産の 3 係)
3. 購買課 (第一購買 第二購買の 2 係)
4. 倉庫課 (計畫 第一現品 第二現品の 3 係)

#### 銑 鐵 部

1. 選鑛工場 (還元 選鑛 燒結 修理の 4 係)
2. 銑鐵工場 (第一 第二 第三 第四各高爐係 運轉 原料係)
3. 散炭工場 (洗炭 第一散炭 第二散炭の 3 係)
4. 副産物工場 (硫酸 硫酸 タール ベンゾール 配氣 窯業の 6 係)

#### 製 鋼 部

1. 製鋼工場 (平爐 造塊 瓦斯原料 鐵合金の 4 係)
2. 鋼片工場 (分塊 鋼片の 2 係)
3. 第一壓延工場 (壓延 精整の 2 係)
4. 第二壓延工場 (第一小形 第二小形 薄板の 3 係)

#### 採 鑛 部

1. 採鑛課 (鑛務 機務 測量の 3 係)
2. 大孤山採鑛所 (庶務 機械 採鑛の 3 係)
3. 櫻桃園採鑛所 (庶務 採鑛の 2 係)
4. 弓長嶺採鑛所 (同右)
5. 甘井子採鑛所

#### 工 務 部

1. 工務課 (計畫 工務 工程の 3 係)
2. 機械課 (設計 機械の 2 係)
3. 電氣課 (電氣 設計 電機 職場の 4 係)
4. 工事課 (土木 建築 水道 線路の 4 係)
5. 動力工場 (發電 變電 氣爐 給水の 4 係)
6. 工作工場 (作業係 機械 鑄造 製罐 木工の 4 職場)

#### 研 究 部

1. 研究所 (試料係 第一 第二 第三 第四 第五各班)
2. 熱管理所 (配給 調査の 2 係)

#### 直 屬 箇 所

1. 業務課 (業務 技術 監査の 3 係)
2. 檢定課 (檢定 檢査 機器の 3 係)
3. 成品課 (計畫 鋼材 銑鐵の 3 係)
4. 運輸事務所 (庶務 配車 運輸 車輛 保線 遼陽 派出所)
5. 大連出張所 (庶務 受渡の 2 係)
6. 東京出張所 (庶務 業務の 2 係) (滿洲日報 7 月 29 日)

**亞鉛鑛鋼業會社設備を擴張** 日本亞鉛鑛鋼業では今回主務省の認可を得て 40 吨平爐 3 基建設の内 取敢ず 2 基建設に決定直ちに工事に着手して年内に火入れする手筈を整へた

なほこれと共に年産 15 萬吨の分塊ミルをも裝備し設備の大擴張をなす事とし 所要機械の引合をアメリカ ドイツ 兩國に發し 平爐用の銑鐵は日本製鐵より供給の内約を見た 分塊ミル所要資金約 150 萬圓の調達に就てはなほ確定せず 先に 250 萬圓より一舉 600 萬圓に増資の結果 新株 350 萬圓中未拂込が 262 萬 5,000 圓ある點から第 2 次拂込徴収となる模様

なほ同社は阪神沿線大庄村地先の新工場擴充の結果 大阪市内の傳法舊工場は 7 月 15 日限り大庄村工場に移轉する (帝國興信 7 月 3 日)

**壽製作所が製鋼事業に進出** 壽製作所ではかねてより鐵鋼事業に進出する計畫を立て之が調査を進めてゐたが今回大阪府泉北郡大津町鹽港地域に 3 萬坪の敷地を買収し株式會社壽製鋼所を創立することに決定來る 27 日創立總會を開催することになつた 要綱次の如し。

1. 名稱 株式會社壽製鋼所
1. 資本金 500 萬圓 第 1 回拂込 1 株につき 12 圓 50 錢
1. 第 1 期計畫鋼材年産 5 萬 5,000 吨
1. 發起人 菊本直次郎 廣瀬次郎 當田健郎 田村駒次郎 大家七兵衛
1. 此株式は來る 8 月 5 日現在の壽製作所株主舊株 10 株につき 5 株 新株 20 株につき 5 株の割合で割當て 殘餘は發企人が引受ける (日本評論 7 月 20 日)

**朝鮮鐵鑛産出狀況** 朝鮮總督府統計年報によると最近に於ける鐵鑛石の産出狀況を見ると次の如くである (單位吨)

昭和元年	387,717	昭和 6 年	415,676
同 2 年	422,560	同 7 年	376,371
同 3 年	559,331	同 8 年	522,553
同 4 年	559,218	同 9 年	570,464
同 5 年	581,960	同 10 年	598,109

此の産出量趨勢は同地産の原鑛石が内地移入を其の主たる目的と

する以上内地鐵業界の消長と一致するのは當然である 大戦以降大正8年を最高とし大正10年11年に至り底を衝き爾後内地製鐵業の恢復と共に漸次鐵鑛山業も持直り氣味となり其產出量も次第に増加し昭和9年及10年の如き其の飛躍的激増を見たのである。

各鐵山の產出高は次の如くである。(單位噸)

	9年	10年		9年	10年
利原	175,558	227,783	銀龍	13,688	15,878
股栗	51,121	55,692	下聖面	137,089	120,996
載寧	100,606	113,138	价川	70,740	61,829

最近稼行鐵山は股栗(日鐵 黃海道股栗郡)載寧(日鐵 黃海道載寧郡)銀龍(三菱鐵業 同所)下聖面(同社 同所)价川(輪西鐵山 平安南道价川郡)及び利原(利原鐵山 咸鏡南道北青郡利原郡)である 而して此等鐵山中 利原鐵山が最大の產出量を擧げ 昭和10年の如き約22萬7,000噸に達し 朝鮮全產出量の38%に該當し且つ利原鐵山を含む前記鐵山の出量が95~6%に達するの現況である 此等の内利原 股栗及載寧の3鐵山の原鑛は日鐵八幡に供給され价川原鑛は俱知安鐵石混用して輪西の原料となり 下聖面は日鐵兼二浦に於て使用されて居る。(帝國興信 7月2日)

**興安鐵の鐵鑛** 永遠にねむる太興安鐵の一支脈に素晴らしい鐵鑛區が発見されたといふ鐵飢饉時代に放たれた快ニュース 既報はその後齊鐵局産業處において調査を進める一方同處古賀商工主任以下係員及び発見者自動車科原田主任等が實地踏査の上 20日歸齊したが試験の結果鐵石は磁鐵鑛で含鐵量質に70%以上 區域は數里四方に亘る廣大なもので埋藏量は無盡藏と云ふも過言ではないと見られるに至り愈々本格的發掘に乗り出すこととなり その第一歩として醴泉鐵區に至るバス路線が開始されることになった 即ち從來 洮南より突泉及び瓦房鎮にはバス(局線)の運行をみてゐたが更に突泉より80km 瓦房鎮より120km それぞれ學田地に延長されることとなり 諸般の準備は着々進んでゐる 學田地は問題の醴泉鐵區に約50kmを以て通ずる小都であり將來開發の第一線を承はる所である(滿洲日報 7月27日)

**我鐵鑛石輸入の三割以上が北支** 支那から日本へ輸出される鐵鑛石は從來は大體60萬噸程度であつたが 昭和9年來増加して11年には125萬噸となり我國鐵鑛石輸入額の3割以上に達してゐる この秋に當つて今次の事變は殊に遺憾で支那當局が一日も早く我が眞意を諒解し日支經濟提携の實があがらん事を切望するものである 支那の鐵鋼業は交通機關の整備せざる爲め現在製鐵所は龍煙

太平洋西南岸諸國鐵鑛資源と日本への供給

	埋藏量	採掘高	日本へ供給
	百萬噸	千噸	千噸
日本	57	577	577
朝鮮	420	650	243
滿洲	1,221	1,478	—
支那	383	1,896	1,252
比律賓	450	不詳	570
蘭島	900	不詳	—
馬來半島	60	1,163	1,690
英印	3,000	1,917	26
濠洲	171	1,247	215
ニューギランド	64	不明	—

居るが未だ實現して居ない。

扱て我國の鐵鑛石消費量は例の昭和16年秋完成の増産5ヶ年計畫により將來1,000萬噸以上の鐵鑛石を必要とするが これに對して現在どう云ふ目安がつけられて居るか? 更に支那がこれに對してど

う云ふ位置にあるかを示すと次の如くである。(單位千噸)

中支	2,000	△馬來方面計	3,500
北支	—	ヤンビーサウンド	1,000
△支那計	2,000	ワイヤラ	500
比律賓	700	其他	1,650
ジョホール	800	△濠洲計	3,150
タイヨー	300	輸入合計	8,650
ブンゲン	1,200	内鮮產出	1,800
キヤマンガ	500	總計	10,450

以上は勿論大雜把な見積りであつて今後更らに調査の進むにつれ新方面も開拓されるであらうから北支問題が我が鐵鋼増産計畫に相當重要な關係はあるとしてもそれが根本問題でない事は諒解されると思ふ。

この意味からして北支問題は 前述の如く圓滿解決を切望して止まないがそれと共に資源確保の分散主義が痛感される 尙反面に於て貧鑛及び砂鐵の利用も必要であり 更に當面の實際問題たる船腹の問題も解決してかゝらねばならないが要するに我が進む路は一筋であり北支問題が如何やうの成行きを示すとも鐵鑛大增産は飽迄これを完全に遂行せねばならない(日刊工業 7月19日)

**臺灣マンガ**ン會社設立計畫 目下臺北市大正町3丁目20番地の辯護士永山章次郎氏を發起人の中心として創立計畫中の臺灣滿僱株式會社は數年前臺北州蘇澳郡下蕃地西帽山附近に於て発見された滿僱鐵區97萬500餘坪(鐵區面積第2883號)に對して當時の蘇澳郡守甲木豐吉氏が種々斡旋して永山氏の名義で鐵區採掘許可を出願したが 同鐵區の一部に介在する金鑛に對して基隆の辻本商事が先願を行つて居つた爲め同滿僱鐵區を繞つて種々の波瀾を生じ許可遷延となつて居たが 昭和11年8月に至つて永山氏外3名に對し愈々採掘許可となつたので爾來永山氏は本業の辯護士業務をソツクノケに當社の創立を目論見資本金50萬圓全額拂込の目標を以て6月上旬内地に赴き資本家を物色中の模様である。

創立計畫の具體的内容に就ては未だ不明だが仄聞する所に依ると此50萬圓を以て鐵區權及採掘設備費其他に充て収入豫算は第一年度は設備未完成其他關係上露天掘を主とする採算基準に依り總收入6萬圓内外 總支出5萬8,000圓内外 第二年度以降は採掘年額5萬噸平均此の販賣總額100萬圓内外(噸20圓換算)に對し總支出60萬圓内外差引利益金40萬圓内外の豫算である

因に同鐵區の埋藏量推定は40萬噸内外の由で8ヶ年繼續事業として採掘可能と見られてゐる由である

此創立計畫の成否に就ては今日の處尙未詳であるが從來の關係者は永山氏を中心に高井安次郎 武藤晴彦 若狹翠の4氏でいづれも此會社組織の實現に相當期待をかけてゐる(帝國興信 7月6日)

**ニューカレドニアで日本鋼管會社鐵鑛區買収** 我國では支那主に長江沿岸より1ヶ年約110萬噸の鐵鑛石輸入を仰いでゐたので北支事變突發以來 同方面からの輸入は尠からず懸念されてゐたが 今月3日積出しを最後として遂に輸入不能に陥り鐵鑛石の海外資源獲得は刻下の急務とされてゐる 折柄日本鋼管で南洋ニューカレドニアの鐵區買収交渉が成立せんとすることは注目に値する 即ち日本鋼管では豫てよりニューカレドニアの佛人ロベール氏所有の鐵區を買収すべく調査員を派遣して買収交渉中のところ最近に至つて會社設立の承認を得たる旨入電に接した詳細は尙不明ながら本社は調査員歸朝後急速に正式買収をなすべく準備を進めてゐる而して同鐵區は埋藏量最少2,000萬噸と稱され含有量は50乃至60%である。(中外商業 8月8日)

馬來聯邦に於ける屑鐵輸出禁止令改正 (商工省貿易局通報

第 632 號昭和 12 年 7 月 23 日) 其後聯邦政府は屑鐵輸出禁止令を次の通り改正する旨 去る 9 日同洲官報告書を以て發表せり。

(イ) Scrap Steel, Scarap Wrought Iron 及び Scrap Cast iron に分つ

(ロ) Scrap Steel, Scarap Wrought iron 及び 1 回積出に 15% 以下の Scrap Cast iron を含有するもの(以上品質保正に關しては、F. M. S. 鐵道長官の證明を要す) 輸出は次記條件にて之を許可す

(1) Port Swettenham 迄 F. M. S 鐵道に依り輸送し 且同港より積出のこと

(2) 適當り 50 仙の輸出検査料徴收す

備考 昭和 12 年 6 月 16 日附商工省貿易局通報第 532 號及 同月 21 日附第 548 號參照

**亞國鐵及鋼鐵屑の價格統制規定** (外務省通商局日報第 177 號 5 月 20 日附在亞寺島臨時代理公使報告) 亞國政府は 1937 年 5 月 17 日大統領令を以て鐵及び鋼鐵屑の價格は 陸軍省工場 (Fabrica Militar ed Acero del ministeris de Guerra) に依り毎月定めらるる價格に依り取引せらるべき旨を規定せり 同令要領は (1) 陸軍省鐵工場は翌月中の鐵及鋼屑の取引に對し適用せらるべき價格を毎月定め之を公表す可し (2) 以上價格は其品質に應じ歐米市場の軟鋼塊月末相場 10 乃至 20% に定めらる可し 以上は工場渡し價格にして如何なる場合と雖も 20 ペンを超過す可からず (3) 聯邦政府所有の鐵及鋼屑は 陸軍省工場に對してのみ賣却せらる可し 但し同品賣却價格が輸送費を填補せざる場合は此限にあらす 本規定は熔鋼屑及特殊鋼鐵に適要せり。

尙ほ以上大統領令は冒頭に於て以上措置の理由を説明し政府は經濟並に國防上製鐵及鑄鐵業の發達を獎勵し居るも原料供給如何に依る所大なり 而して之が爲め已に故鐵屑及故鋼鐵屑の輸出を禁止し居るが更に是等原料品所有者に對し正當なる價格を維持するとともに一方不當なる暴利を取締る要ありとなし居れり 而して 5 月 18 日亞國陸軍省は本令に依る鐵及鋼鐵屑の價格を 6 月以降制定す可き旨を發表したり。

**蘭領印度鐵鋼輸入制限延長** (外務省通商局日報第 179 號昭和 12 年 8 月 4 日) 蘭印東印度の鐵鋼輸入制限延長せらる。(1) 期間 1937 年 8 月 1 日より 1 ヶ年間 (2) 許可數量 12 萬噸 (3) 國別割當なし。

**支那銑鐵及鐵材禁輸** (外務省通商局日報第 178 號 7 月 31 日著在上海岡本總領事電報) 上海稅關は昭和 12 年 7 月 30 日附を以て銑鐵 (Pigs Kentledge) 及鐵材 (bars, hoops, sheets) は國產たると外國品たるを問はず外國及滿洲並大連向輸出を暫行的に禁止する旨告示せり。

**新西蘭故鐵輸出禁止** (商工省貿易局通報昭和 12 年 8 月 9 日第 746 號) 新西蘭政府は今般故鐵輸出禁止することとなり 6 月 17 日同領官報に同月 18 日以降所管大臣の許可なく輸出すべからざる旨公示せり。(昭和 12 年 7 月 6 日在シドニー若杉總領事報告)

**米國の屑鐵の輸出問題** 北支事變に對してアメリカ政府は嚴正中立の態度を採つてゐるが 交戰團體に對する武器又は武器以外の軍需品の輸出を禁じた所謂中立法を發動するか否かも「事態の今後の進展如何による」と謂ふのが ハル國務長官などの示した態度である 然し乍ら茲に一つ注意すべきは 22 日ニューハンプシア州選出共和黨上院議員スタイル・ブリッヂェス氏が最近上院に對してアメリカよりの輸出屑鐵が輸入國に於て如何に利用されてゐるか

の調査を議會の手で行ふやう要請した事である 而してブリッヂェス氏の説明によれば議會の此の調査の結果アメリカ國內の屑鐵供給の保全乃至公正妥當な價格維持のために屑鐵輸出禁止が必要であるか否かの問題の外 アメリカ屑鐵を輸入する國がその屑鐵を血腥き戰爭のために利用してゐる事無きや否や 其のために輸出禁止を必要とする事無きかの問題にも資料を提供する事にならうとなしてゐる アメリカより大量の屑鐵を輸入する吾國として多大の關心なきを得ない譯である。

屑鐵輸出禁止問題 尤もアメリカに於ける屑鐵輸出禁止問題は決して新しい問題ではない 既に 1934 年 6 月には下院に日本向鐵力輸出禁止案が出され 結局昨年 2 月から輸出制限が實施されるに至つたが これは錫を主としたものであつた 同じく 1934 年 8 月には上院軍需品調査委員會が日本向の屑鐵輸出の激増に驚いてその調査を開始し其後も機會ある毎に蒸し返されてゐたが 最近の軍需景氣の昂揚から鐵相場暴騰となり 再びアメリカ朝野の注意を喚起するに至つてゐるのである 特に小さい製鋼會社にあつては原料難から屑鐵輸出禁止運動を起し 3 月末にはワシントン州選出民主黨上院議員ルイス・シユエレンバツハ氏から屑鐵輸出許可制設定法案が議會に提出された 尤もこれは政府の反對意嚮や大製鐵會社 屑鐵協會等の反對でその後結局ものにはならなかつた様だが運動が全然立消えとなつた譯ではない 即ちハル國務長官は「屑鐵輸出を制限するもアメリカには何等益する所なし」とて反對したにも拘らず 6 月中旬 5 名の屑鐵問題の調査委員を任命した 小製鋼會社 1,100 社も屑鐵對策委員會を組織して輸出制限の運動を續けてゐる 今次のブリッヂェス案の提出も亦この風潮の所産と見做してよい。

老大な屑鐵資源 元來屑鐵の輸出禁止を主張するのは主として小製鋼業者であるが 彼等の言ひ分を綜合すると

1. 屑鐵の大量輸出がアメリカ資源の喪失を意味すること
1. 輸出された屑鐵が殆んど軍需用に供されてゐること
1. 輸出激増により國內屑鐵の品ガスレを生じ相場は昇騰すると共に生産コストが高められ 小製鋼業者を脅威すること

等である 第 1 に擧げられてゐるアメリカ屑鐵資源は一體どの位あるか この點に關しアメリカ屑鐵輸出の中心をなしてゐるヒューストン港務局は去る 6 月上旬アメリカの屑鐵在高は再熔鋼に適するものが數 10 億噸に達するとの興味ある調査を行つて居る 蓋しアメリカは言ふ迄もなく世界一の鋼鐵消費國で各種工業就中石油 製鋼自動車 機械 鐵道等の設備の新陳代謝が激しいため 無盡藏の屑鐵が吐き出されて居り 屑鐵資源の喪失などは若干先走りの觀測と言ふの外はない 次に「輸出される屑鐵が武器に化ける」かどうかにか就ても色々の見解があり一部では一笑に付す向もある 例へばニューヨークの外國貿易委員會長ユージン・トーマス氏の如きは日本向屑鐵に關し

日本の屑鐵輸入が武器になるといふのは事實無根だ 假令武器製造用に供される部分があるとしても少量で問題にならぬ 元來日本は自國內に鐵鑛を有してゐないので 鐵鑛は殆んど支那から輸入してゐるが 屑鐵の大部分は工業用に供せられるものである — と述べてゐる 要するに日本に限らず 廣義の國防工業が世界的に盛んな折柄として この種の調査は頗る困難であつて さう簡単に斷定を下すことは出來ない 又アメリカ國內の屑鐵品ガスレに就ても 一時的現象としては勿論充分に考へられるのであるが 小製鋼業者の主張する等の事態に陥るや否やは之亦各方面に互る調査の後でないとは判明しない

アメリカの屑鐵輸出 アメリカは年々どれ位の屑鐵が輸出されるかといふに、ヒューストン港務局長の發表に依れば1936年のそれは約200萬噸で同年のアメリカ國內の屑鐵荷動高1,700萬噸の1割2分に過ぎない。小製鋼會社により設立せられた屑鐵對策委員會の統計によつて見るに昨年中の輸出内譯は(單位噸)――

合計	1,941,031	イギリス	369,781
内日本	1,057,359	イタリー	285,126

――となつてゐて日本はその5割5分弱を占めてゐる。本年に入つてからはこの屑鐵輸出増加の趨勢は一段と激しくなり、同委員會の見積りではこの儘で行けば300萬噸に達するだらうとの事である。(東京 都 8月3日)

内地 朝鮮 滿洲に於ける鐵鋼材 5月分生産額及前年同月の生産額比較増減表 (單位噸)

品別種	5月分		累計		累計比較増減	品種別	5月分		累計		累計増減	
	12年	11年	12年	11年			12年	11年	12年	11年		
銑鐵	内鮮	230,190	185,891	1,064,314	895,725	棒鋼	内鮮	104,835	83,835	498,035	393,966	104,069
	滿洲	60,998	55,397	270,681	268,465		滿洲	8,317	6,938	38,828	27,228	
鋼塊	内鮮	481,499	407,556	2,330,404	1,999,346	形鋼	内鮮	58,981	40,446	302,150	227,021	75,129
	滿洲	30,880	32,173	155,700	132,813		滿洲	—	—	—	—	
鑄鋼	内鮮	14,091	10,253	57,535	43,264	軌條	内鮮	19,842	31,623	84,308	137,396	△ 53,088
	滿洲	7	—	38	—		滿洲	3,932	3,164	14,993	9,158	
販賣向鋼片	内鮮	12,395	11,973	67,116	57,318	線材	内鮮	40,123	38,495	211,866	199,264	12,602
	滿洲	6,520	4,422	33,361	22,917		鋼管	内鮮	21,720	17,221	88,247	
販賣向シートバー	内鮮	27,665	25,993	142,256	151,079	鋼帶	内鮮	11,040	6,179	46,107	29,259	16,848
	滿洲	3,716	8,268	33,438	27,471		其他	内鮮	6,092	3,673	27,336	
鍛鋼品	内鮮	8,119	6,277	39,470	29,411	製鋼品	内鮮	—	—	—	—	—
	滿洲	—	—	—	—		滿洲	—	—	—	—	
歴延鋼材	内鮮	420,373	341,756	2,034,337	1,660,341	合 金 之 部						
	滿洲	15,760	12,503	70,412	49,244	鐵	内鮮	6,548	4,516	25,430	1,4132	11,298
歴 延 鋼 材 内 譯						鋼塊	内鮮	15,890	9,682	62,543	43,403	19,140
鉄力	内鮮	17,048	11,681	73,078	55,244	鑄鋼	内鮮	1,584	893	9,789	3,831	5,956
	滿洲	—	—	—	—	滿洲	3	—	—	32	—	32
厚07耗以下鋼板	内鮮	35,801	31,301	204,509	157,424	鋼材	内鮮	5,719	—	25,680	21,120	4,560
	滿洲	3,115	2,401	15,196	10,310	製鋼品	内鮮	3,891	—	—	—	—
其他鋼板	内鮮	104,891	77,300	498,701	366,290	滿洲	—	—	—	—	—	
	滿洲	396	—	1,395	27	滿洲	—	—	—	—	—	

備考 △印は生産減を示す

石炭 石油 銑鐵 鋼鐵 需給概表 (三井銀行考査課「經濟日誌」重要商品一覽表より拔萃5月分)

年 月	石 炭 1屯=約1'02噸				石 油 1圓=10ガロン=20'98升=37'85立				◎銑鐵 1噸=16'6百斤			◎鋼 鐵		
	産額 商工省 調 査	送炭	貯炭	相 場 九州一等 塊炭1萬斤 末	産額 原油 商工省 調 査	輸 入 各 種	相 場 揮發油赤 新撰1圓 末	産額 (朝鮮を含む) 商工省 調 査	輸 入	相 場 輪西三號 1噸月末	産額 (朝鮮を含む) 商工省 調 査	輸 入		相 場 丸鋼ベース 物0.1噸月末
												數量	價 額	
昭和 年 月	千噸	千噸	千噸	円	千ガロン	千ガロン	円	噸	噸	円	噸	噸	円	円
12. 1	3,242	3,249	698	130'1	34,774	428,644	5'95	190,661	65,298	60'00	364,639	105,899	9,896	19'50
2	3,186	3,154	688	〃	30,703	430,936	6'00	184,856	56,047	〃	403,515	137,117	13,213	18'00
3	3,830	3,804	819	〃	32,882	528,044	〃	227,900	56,895	〃	431,857	139,955	16,558	26'00
4	3,399	3,316	902	137'0	31,618	415,863	6'50	230,707	54,414	78'00	413,953	209,020	25,224	22'50
5	3,547	3,490	936	〃	32,834	518,962	〃	230,190	64,178	〃	420,373	339,417	40,623	21'00

註 銑鐵 鋼鐵産額 12年1月以降内鮮分のみ(滿洲分除外)

昭和 12年 4月中重要生産月報拔萃 (商工大臣官房統計課)

品 名	生産額	5月中	4月中	前年同月	1月以降累計	
					昭和12年	昭和11年
金 (gr)		1,886,133	1,871,803	1,675,346	9,595,729	8,239,141
銀 (gr)		26,257,439	26,279,562	22,772,018	134,219,829	114,682,473
銅 (kg)		7,120,619	7,030,576	6,455,245	34,257,868	32,243,927
鉛 (kg)		877,538	802,842	632,158	3,878,948	3,025,703
亜鉛 (kg)		3,901,477	3,860,821	2,849,363	18,585,305	14,201,682
錫 (kg)		134,048	136,913	148,483	676,910	889,282
硫酸	(t)	22,922	25,165	15,457	95,025	70,006
硫酸鐵	(t)	160,279	159,106	142,255	780,258	697,642
セメント	(t)	614,744	543,448	504,913	2,481,668	2,242,529
硫安	(t)	117,104	123,550	111,450	566,798	516,450
石炭	(t)	15,124	10,703	15,408	76,166	79,974
石油(原油)	(100%)	3,547,263	3,399,252	3,135,405	17,387,152	15,773,977
		328,345	316,189	321,849	1,629,119	1,521,029

內外最近刊行誌參考記事目次

**Stahl und Eisen, 10 Juni, 1937.**

Die Anwendung der Nomographie in Rohrwalzwerken. R. Mooshake. s. 649-656.  
 Unterschiedliche Anzeigen von Rücksprunghärteprüfern. W. Hengemühle u. E. Clauss. s. 657-660.

**3 Juni, 1937.**

Über das Kalibrieren von Formstahl. C. Holzweiler u. T. Dahl. s. 625-632.  
 Die Rechnungslegung im neuen Aktiengesetz. J. Esser. s. 633-637.

**27 Mai, 1937.**

Wirkungen des Wasserstoffs auf Stahl. P. Bardenheuer. s. 593-601.  
 Walzen und Kleben von Feinblechen. E. Günther. s. 601-604.

**20 Mai, 1937.**

Neuerungen an Gasmaschinenzylindern. F. Reimer. s. 569-580.  
 Führung eines Hochofens in Anpassung an seine Profilgestaltung. J. Stoecker. s. 581-584.

**13 Mai, 1937.**

Führung eines Hochofens in Anpassung an seine Profilgestaltung. J. Stoecker. s. 545-552.  
 Abblätterungen an Radreifen. R. Kühnel. s. 553-559.

**Metal Industry (N.Y.) June, 1937.**

Manufacturing Metal Novelties and Toilet ware. pp. 275-279.  
 Metal Rectifiers for Electro-Plating. pp. 281-282.  
 The Purchase and Use of Lacquers by Metal Manufacturers. G. Klinkenstein. pp. 285-287.  
 The Fundamentals of Spray Coating Equipment. A. W. Christensen. pp. 288-289.  
 The Treatment of By-Products Formed in the Hot-Dip Galvanizing Process. W. G. Imhoff. pp. 292-294.  
 Reducing the Cost of Milling Aluminium Castings. J. E. Swanson. pp. 294-295.

**May, 1937.**

How Precious Metal Jewelry is Made. F. A. Westbrook. pp. 206-208.  
 Electroplating Practice Throughout the World. pp. 212-220.  
 New Electrogalvanizing Mill for Round Wire. C. C. Crane. pp. 221-224.  
 The Application of Lacquers to Metal Products. G. Klinkenstein. pp. 230-233.

**Blast Furnace and Steel Plant, May, 1937.**

Setting New Standards for Blast Furnace Runs. G. G. Coolidge. pp. 493-495.  
 Sleeve-rolls. W. Trinks. pp. 496-498.  
 Coke Research. W. Davidson. pp. 499-502.  
 The Ingot Phase of Steel Production. E. Gathmann. pp. 504-505.  
 The Firing of Open Hearth Furnaces in German Steel works. F. Weseman. pp. 506-511.  
 Republic Steel Corporation's New Wire Mill. pp. 512-514.  
 The Fuel Engineering Field. pp. 516-518.

**Iron Age, June 10, 1937.**

Machine Tools and Prosperity. T. Berna. pp. 30-31.  
 Machining and Assembling of Parts for World's Largest Telescope. G. Passmore. pp. 32-36.  
 Surface Broaching in High-Production Industries. pp. 37-39.  
 Fundamentals of Safety and Accident Prevention in Steel Plants. L. H. Burnett. pp. 40-43.  
 A Round Dozen of Unusual Handling Ideas. F. Juraschek. pp. 44-48.  
 Machine Tool Builders Contribute to Mass Production. pp. 49-50.  
 High-Yield Resilient Tin Plate. pp. 51-52.

**June, 3, 1937.**

A Digest of Stainless Steels. V. N. Krivobok. pp. 39-43.  
 Technological Advances in Steel Products. C. M. White. pp. 42-43.  
 The Great Iron Chain. C. B. F. Young. pp. 44-49.  
 Production and Quality Control of Automobile Body Sheets. pp. 50-53.  
 The Control of Electrically Driven Machinery. F. Juraschek. pp. 54-57.  
 Gear Makers Discuss Technical and Management Topics pp. 58-60.

**May 27, 1937.**

Real Facts on Industrial Employment. P. E. Bliss. pp. 36-40.  
 Developments in Production Metallurgy of Iron and Steel. G. B. Waterhouse. pp. 43-47.  
 Planning Overhead Handling for Economy. F. Juraschek. pp. 48-53.  
 Develops Hardening Machine for Double Helical Gears. pp. 54-55.

**May 20, 1937.**

Analysis of 25 Elements in 25 Minutes. F. J. Oliver. pp. 25-29.  
 Present Trend in Engineering Alloys. J. A. Jones. pp. 32-37.  
 The Control and Protection of Distribution Lines. F. Juraschek. pp. 38-43.  
 Stainless Steel Scrap Flame-Cut Rapidly to Remelting Size. F. Judelsohn. pp. 43-44.  
 Flexible Welder Facilitates Truck Fabrication. pp. 45-47.  
 Schenectady's New All-Welded Armory Rises. pp. 48-49.

**May 13, 1937.**

Machine Tools an Important Factor in Prosperity. C. R. Burt. pp. 35-37.  
 A Metal Cutting Test Method for Machine Shop Use. pp. 38-41.  
 Machining of the Ford 60-Hp. V-8 Engine. F. J. Oliver. pp. 42-47.  
 Republic's New Wire Mill Includes Electro-Galvanizing Equipment. pp. 48-52.  
 Skyways Handling Systems are Versatile. F. Juraschek. pp. 53-58.  
 Machine Tool Replacement. E. P. Blanchard. pp. 59-60.  
 Flexible Tubing from Strip. pp. 60-61.

**May 6, 1937.**

Stainless Steel. T. W. Lippert. pp. 36-41.  
 Electrical Distribution Systems should be Planned. F. Juraschek. pp. 42-45.  
 Electric Furnace Cast Iron. C. H. Morken. pp. 46-49.  
 Malleable Crosses New Bridges. pp. 50-51.

**Zeitschrift Für Metallkunde, Mai, 1937.**

Das Gefüge eutektischer Legierungen, seine Aenderung beim Walzen und Erhitzen. G. Tammann u. H. Hartmann. s. 141-144.  
 Die Aenderung des elektrischen Widerstandes während der Aushärtung der Nickel-Beryllium-Legierungen. W. Gerlach u. K. Hammer. s. 145-149.  
 Mischkristallbildung und Kornverfeinerung bei Magnesiumlegierungen. H. Manemann u. W. Hofmann. s. 149-152.  
 Die Entfernung von Aluminium und Eisen aus Kupfer und Kupferlegierungen. Hans-Otto v. Samson-Himmeltstjerna. s. 153-154.  
 Neuere Aluminium-Lagermetalle. E. Vaders. s. 155-158.  
 Leichtmetall-Lager. R. Hinzmann. s. 158-162.  
 Röntgendurchstrahlungen zum Sichtbarmachen des Primärgefüges. H. Kostron u. E. Ruppel. s. 163-168.  
 Die Bestimmung der zum Ausmessen von Vickers-Eindrücken erforderlichen Vergrößerung. K. Spokert. s. 168-170.

**Foundry, May, 1937.**

Copper has Beneficial Effect on Cast Iron Properties. V. H. Schnee. pp. 39-40.  
 Speeding up Metal Analysis. A. Waldchen. p. 41.  
 Annealing Time for Malleable is reduced to 45-50 Hours. E. Bremer. pp. 42-43.

**Metal Industry (London), June 4, 1937.**

Restrictions Bring Improved Materials. H. Pontani. pp. 621-624.  
 Metal Working Equipment at the Paris Fair. pp. 625-627.  
 Uniformity in Metals and Alloys. pp. 629-630.  
 Cleaning Before Plating. F. A. Maurer. pp. 633-635.

**May 28, 1937.**

Physical Methods in Metallurgy. B. Chalmers. pp. 597-600.  
 Cutting Properties of Metals. O. W. Boston. pp. 601-602.  
 A Large Leading Nut Casting. E. Longdon. pp. 603-604.  
 Organic Contaminants in Nickel Baths. A. W. Hothersall and G. E. Gardam. pp. 609-612.  
 Air Agitation in Chromium Plating. J. Nugent. p. 612.

**May 21, 1937.**

Heat Conductivity of Mould Materials. F. Hudson. pp. 573-575.  
 Modern Cold Heading Practice. pp. 576-577.  
 Soundness in Step Castings. E. Longden. pp. 579-583.

- Heavy Nickel and Chromium Deposition. C. F. Bonilla. pp. 585-588.  
 May 14, 1937.  
 Die-Castings in Automobile Production. C. R. Maxon. pp. 551-554.  
 Anodising Aluminium Alloys. pp. 555-556.  
 The Early Production of Copper and Copper Alloys. M. Cook. pp. 557-559.  
 May 7, 1937.  
 Furnaces for Aluminium Alloys. G. C. Castle. pp. 527-531.  
 Radiology in Testing. V. E. Pullin. p. 532.  
 The Flow of Metals. C. Andrade. p. 534.  
 The Early Production of Copper and Copper Alloys. M. Cook. pp. 534-537.  
 Crystal Structure of Copper Deposites. A. Phillips & W. R. Meyer. pp. 539-541.  
 Continuous Deposition of Strip. p. 542.  
 April 30, 1937.  
 Fluxes for Soft Soldering. C. C. Miller. pp. 503-505.  
 Age-Hardening and Improved Light Alloys. pp. 506-509.  
 The Early Production of Copper and Copper Alloys. M. Cook. pp. 511-515.  
 April 23, 1937.  
 Lead Refining at Northfleet. pp. 479-482.  
 Some Problems Involving the Accuracy of Machine-Moulded Castings. A. H. Squire. pp. 483-484.  
 Research on Light Alloys. p. 484. (川合)
- 北光** 第43號 昭和12年7月  
 ローリングミルに要する動力及び之に附隨する二三の問題に就て 黒田 三郎 (36)  
 平爐操業に就いて 三神 正苗 (71)
- 探鑛冶金月報** 第15年 第7號 昭和12年7月  
 我國に於ける諸金屬の需給狀況とその増産對策附増産研究  
 機關(一) 渡邊 俊雄 (165)  
 タングステンを含む鑛滓の處理法 野間 朝亮 (175)
- 東京工業大學々報** 第6卷 第7號 昭和12年7月  
 金屬熔射被覆法の研究(第1報)  
 熔射法に關する基礎的考察 星野 愷、武井 武 (151)
- 滿洲の技術** 第14卷 第100號 昭和12年7月  
 鐵バクテリア及マンガンバクテリアの繁殖に就て 兒玉 得三、倉内喜久雄 (352)
- 日立機械評論** 第29號 昭和12年7月
- 空機壓縮機のシリンダー鑄物 川本 昇 (1)  
 空氣壓縮機材料熱處理 市川 萬一 (9)  
 空氣壓縮機の多量生産に就て 齋藤 商司 (25)  
 空氣壓縮機の試験 宮下 弘 (33)
- 水曜會誌** 第9卷 第4號 昭和12年6月  
 ニッケル及ニッケル銅合金の脱酸に就て  
 (金屬及合金の脱酸及瓦斯の除去の研究 第6報)  
 西村秀雄 守永孫江 池田正 (251)  
 流電々位探鑛法成立要素に關する研究 藤田 義象 (263)  
 比例的に寸法を異にする鑛脈模型に依る流電々位探鑛法に關する實驗結果の檢討 藤田 義象 (273)  
 各種鐵鑛の存在の下に於けるCOの解離作用に就て(補遺) 澤村 宏 (279)
- 鑛業・燃料** 創刊號 昭和12年8月  
 我國鐵鑛需給問題に就て 東 榮二 (5)  
 ニュウカレドニア鐵鑛調査 (17)  
 鐵鑛國策の一翼としての砂鐵問題 柴野 二郎 (20)
- 日本化學會誌** 第58帙 第7號 昭和12年7月  
 銀を主成分とするアルミニウム・銀合金に關する研究 小藤 甫、中村 定 (694)  
 Cuを主成分とする Mn-Cu 並に Fe-Cu 合金の熱膨縮的研究 川合 照 (727)
- 造兵彙報** 第15卷 第7號 昭和12年7月  
 マグネシウム合金機械加工に於ける危害防止對策並旋屑の再生熔融法 平田安太郎 (33)
- 日本金屬學會誌** 第1卷 第3號 昭和12年7月  
 金屬の同素變態及び融解の際の磁氣係數の變化に就て 清水與三松 (113)  
 純鐵の熱傳導率に就て 服部傳三郎 (120)  
 新合金センダスト及び Fe-Si-Al 系合金の磁氣的性質並に電氣的性質に就て 増本 量、山本 達治 (127)  
 二、三のコバルト合金に就て  
 第3報 Co-Si 系二元合金狀態圖に就て 橋本 宇一 (135)  
 鉛-蒼鉛系の平衡狀態圖に就て(I) 高瀬 孝夫 (143)  
 特殊鋼實用上の諸問題(I) 玉置 正一 (173)  
 現代の工業用輕合金に就て(III) 田邊友次郎 (191)